ジンジンする

ZINE

モモンガ：一眼レフで撮った写真や絵画などを公開されています。
幻想的な作品で素晴らしい

* 東京駅夜景

いつもの雰囲気とは違って、新鮮な気持ちになりました。

* *蝶*

たまには、寄り道しよう。

* 青の洞窟

宇宙から見た地球の色に似ていました。
あまりにも美しくて、別の世界に行った気分になりました。
宝石みたいに輝いていました。

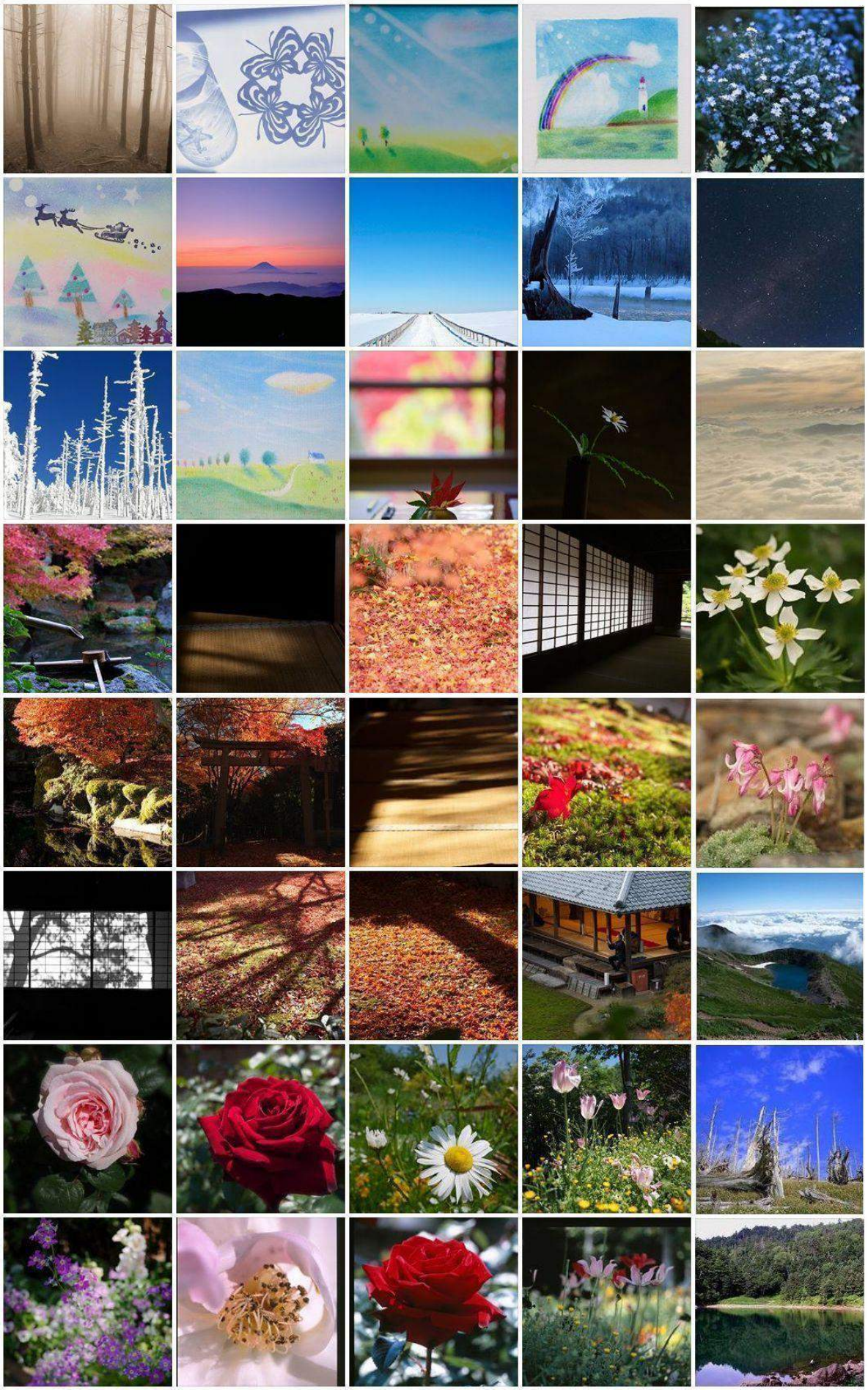
２０１４/2/8

★『ジ ン ジ ン す る ZINE』

作品提供：読書メーター友達

編集人：コットン

Keipan：素晴らしい写真はフォトコンテストで入賞される腕前でさすがです！
パステル画も癒される〜。



coral♪：絵がうまく、写真部でも活躍する高校生。高橋留美子さんがお好き。(作品は表紙の「日が射す雲の写真」も)

魂の向かう先

明那：プロフィールの本棚が１６棚といろんな事に関心がある人のようで、漫画好きでもある。

「人は死んだらどこに行くんだろうね」
突然、君が突拍子もなくそういうから、僕はほんの数秒固まってしまった。
「何、突然。」
「だってさ、世の中ってこんなに生きにくいんだもん。天国ってどれだけ楽で、地獄はどれだけ苦しいのかなって」
そう言って笑う君は遠くへ想いを馳せるように視線を巡らせる。
「そうだな、きっと…天国は何も考えなくていいとこなんじゃないかな。人間関係とかも考えなくてよくて、何のしがらみもなく生活できるとか？」
「それって、生活してるって言えるのかな。確かに、生きていくって色んな事考えなきゃいけないし、楽に生きていく事なんて不可能だけど…だからこそ、存在してる、生活してるって言えるんだよね。」
君はそう言って笑いながら、軽く伸びをする。
「そうだね…じゃぁ、そういう悩みから解放される天国って…無になること、なんじゃない？」
「…そっか。それって、何もかも、魂さえもなくなっちゃうって事だよね。」
僕の言葉に、君が少し悲しそうに目を伏せるのを感じ、僕は困って頭を掻く。
「でも、生きていくのに、誰も傷つけず、罪を犯さず生きていく事なんて誰にも出来ないから…地獄という意味でこの世に再び戻されちゃうのかも。」
悲しそうな君の顔を見ていたくなくて、必死に考えた事をその場のノリで口に出す。
「そっか、そうかもね。じゃぁ天国行くのは不可能に近いね」
僕の論が気に入ったのか、君がコロコロと笑う。
「じゃあ、来世でも絶対一緒だよ、約束だから。」
「うん、絶対離れないよ。」
僕はそう言ってそっと君の手を握りしめた。

まーちゃん：『本を読むこと、感想を書くこと、お気に入りさんのつぶやきやレビューを読ませてもらうこと、そこにコメントを書かせていただくことが至福の時間』と言われています。

目指せ、「先手必勝」

本や人の話を、分かった気になっていて実は全く理解していなかったり、独りよがりな解釈をしているだけということが、私にはよくある。子供の頃大人たちに言われた諺や先人の知恵が、今頃になって「そうだったのか！」と腑に落ち、あの頃もっと素直に聞いておけば・・・と秘かに悔しがったりしている。私は頭でっかちな子供だったが、この歳になって文字として記憶していることが、実際手足を動かしているとふいに実感を伴って理解・納得できる瞬間がある。

最近感じたのは「先手必勝」だ。この年末はやるべきことがいつもより早く片付いたので、大晦日に午後からお買い得品でも探そうとぶらぶら出掛けた。そして驚いた。すごい解放感！混雑に腹も立たない、いつもは薄情な私が気付かぬうちにお年寄りやベビーカーを押すママに道を譲ったり、手を貸したりしている。

私はギリギリにしか動けない質で、時間的精神的に余裕のない時が多い。なので自分のことに精一杯で、それ以外のことはあまり見ていないし、周囲に邪魔されているように感じる時さえある。
そうか、「先手必勝」「先んずれば人を制す」「備えあれば憂いなし」「早起きは三文の徳」…これらはどれも早めの準備や対応が肝心だと言っていたのだ。（今さら何を言ってるんだか・苦笑）
それにしても、今回も目からうろこの体験だった。
よし、今年は「先手必勝」で行こう！・・・なんて言いながら、この原稿も締め切りギリギリでした。

踊るらいぶらりあん：
本好きで的確な答え
が帰ってくる人。
今回の韻文素晴らしい

恋重荷

ひとときの 安らぎも得ぬ
苦しみは 我が身より出づ
踏み初めし 恋路にまよひ
よるべなく あくがれまどひ
いたづらに まつはりつきて
かのひとの 重荷となりぬ

かに かくに まだ 焦がるるか
あさましき恋の奴（やっこ）や
道すがら ひとめ見るたび
このこころ 逸りてやまず
やすらはず 乱れてやまず
恋しさは 重荷となりぬ

つくづくと せつなし つらし
こまやかな こころづかひも
やさしさも あはれみさへも
奪ひおきて 我が身のうへは
かのひとの 恋の重荷と
なり果てて 朽ちゆきにけり

過ぎ去りし 時は戻らず
すれ違ひし こころ戻らず
きざまれし おこなひ消えず
投げつけし 言の葉枯れず
ふりしぼる ちから及ばず
課せられし 重荷になへず
うち歎く　声は届かず
日に千たび　心を谷に
捨て果てて　なほも消えざる

恋ひ恋ひて 夜の枕に
うち伏せば 人にも逢はむ
ほほ笑みて 語らふことの
尽きぬこと 泉のごとく
やはらかく 握りたる手の
愛（かな）しきこと 命のごとし
いとせめて ひとめなりとも
醒めてのちに逢ふよしもがな

恨みかね 思ひむすぼれ
恋しさは あくがれまどひ
身にあまる 重荷となりぬ
ひとときの 安らぎも得ぬ
苦しみを いづこへやらむ
いかにせむ 誰に伝へむ

Kimiyasu　Igarashi：ジャック・デリダから手塚治虫まで
守備範囲が広い人。
今回３作提供して頂きましたが紙面
の都合で２作品になりました。

本の虫賛歌（SILVERFISH ver.）

本の虫である我々、つまりは紙魚と同じさ。Yo, listen!
紙の魚と書いてシミと読む、あんたの肌の話じゃないぜ、
勘違いすんな しみじみすんな。
薄暗い蔵書の世界をさまよい、求めてんのは愛と冒険、
めまいと恍惚。露骨に刺激がほしいんだ。
貪りたいぜ、お前の思想も理想も、お前の操も、Oh！
東野圭吾もジョイスも上等だ、こちとら紙なら中身は問わん、
ディナーの時間さ、いざ食わん！
初めての出会いはビビったぜ、ペーパーバックの中で白く輝くお前、
ちょっと待ってよプレイバック、プレイバックとか言ってる間に超
移動、素早く逃げるお前に呆然だった、見なきゃよかった、
本閉じたった。
お前ぺちゃんこ、本でサンド、明日は我が身か西方浄土、本につぶ
され死ぬなら本望さ、それじゃさながら腹上死、Shit！
だけども She の次には me がくんのさ、分かんねぇなら帰ってくやさんね？
俺たちだけが知る悲しみや苦しみ、それすらも楽しみ、君を街の雑踏から雑踏へいざなう Bad boys たちもいっそ蹴っ飛ばし、颯爽と妄想のあぶくン中で Let's read a book！

←（体型が魚に似ているので「魚」の字を用いる）シミ目シミ科の原始的な昆虫の総称。
体は細長く無翅。
一面に銀色の鱗におおわれ、よく走る。
衣服・紙類などの糊気あるものを食害。
【広辞苑】

２０１３年を振り返って

２０１３年もいろいろな出来事・事件がありました

私自身にとっては、変わり映えしない１年であったようにも
これまでになく充実した１年であったようにも思います
どちらかというと社会に無関心な私ですが、
１年間のニュースを振り返ってみると、
頭に浮かんでくるのは次の２つのことばです。

日本脱出したし　皇帝ペンギンも　皇帝ペンギン飼育係りも
（塚本邦雄）

気をつけよう、甘い言葉と暗い道
（ビッグブラザー）

２０１４年が皆様にとって素晴らしい年となりますように

nekono：『実はネコ好き、犬好き、ネズミ好き（笑）鳥も怪も・・・
リスも妖怪も…』という人。

引用の多い本棚

本読みにとっての理想の一つが、森見登美彦さんの「夜は短し歩けよ乙女」に描かれている。
古書市での一冊の本から次の本へ、その本から、また次へ、次々と本が連なって行く場面、その拡張感と高揚感、こういう場面を読むと「あぁ、わかる」と言うしかない。
石原千秋さんの「未来形の読書術」では、多様な解釈と広がりを持つ作品こそ読者がより多くの読む喜びを味わえるという意味のことが書かれている。
また、「読書の歴史」(アルベルト・マングェル)「失われた第一ページ」では「読書において「最後の決定的な言葉」というべきものがないのなら、いかなる権威も「正しい」とされる読みを我々に押しつけることはできない。」と語っている。
つまり、多様な解釈や広がりを本の中に見出すのは(現代においては)読者だということになる。
無論、本に書かれていることから完全に離れてはいけない。
それでも解釈や広がりは無限に存在しうる。たとえ、奇数という縛りがあったとしても奇数は無限にあるように。
この無限の解釈や広がりを思う時、ボルヘスのバベルの図書館を思い起こさずにはいられない。

（諸星大二郎さんの「古本屋地獄」でもいいし、仮面ライダーWの「星の図書館でもいいが)無限に広がる無数の解釈、読解。しかし、それは、また極めて個人的なものでもある。
「別世界にて」(C・S・ルイス)の中ではウェスタン冒険小説の愛読者について語られている。
愛読者は「本に書かれていること」に自分の経験や知識、想像ないしは妄想をプラスし自分のための物語に変換して読んでいるというのだ。
このような変換を経て、本は個人にとっての唯一の本となり、多様な解釈はその本を拡張しする。本は広がりを持ち、別の本に連なり、次々と連想の輪を広げていく。

こうして作られて行く本と本との繋がりは個人的なものであると同時に内容に準拠するという意味で共通のものでもある。
「江戸の読書会」(前田勉)に書かれているような共読の意義、ひいてはネット上の読書サイトの意義もこの広がりの中にあるのだろうと思う。

みやや：歴史学と社会学とアート、短歌と現代詩など多方面に関心をお持ちの人。
ご職業は、読メの皆さん羨望の的の書店員さん

純粋読者〝みやや〟の偏愛短歌集

人間のふり難儀なり帰りきて睫毛一本一本はづす　石川美南

晩年のあなたの冬に巻くようにあなたの首にマフラーを巻く　大森静佳

人間は皮膚から向こうの世界には行けない机につっぷしている　黒崎恵未

噴水に乱反射する光あり性愛をまだ知らないわたし　小島なお

買ったけど渡せなかった安産のお守りどこにしまおうかなあ　五島諭

キーボード打つのみの仕事に前任の打ち癖はあり　コンマが半角　澤村斉美

うらがへしあて名を書かば砂となりこぼれてしまひさうな絵はがき　田口綾子

やわらかく監禁されて降る雨に窓にもたれた一人、教室　立花開

美しさのことを言えって冬の日の輝く針を差し出している　堂園昌彦

乗客は乗り込んだのに雨の日のドアをしばらく開けているバス　土岐友浩

月を見つけて月いいよねと君が言う　ぼくはこっちだからじゃあまたね　永井祐

朝礼は訓示残して終わりつつ駅舎を越えて飛ぶポリ袋　服部真里子

窓越しに鬼がさざめく音がして黒板に白き線が引かれる　花山周子

くびすじをすきといわれたその日からくびすじはそらしかたをおぼえる　野口あや子

さかみちを全速力でかけおりてうちについたら幕府をひらく　望月裕二郎

あの星は？　と問えばあなたは見えないと言えりいちばん明るい星を　平岡直子

生まれてからこれまで触れたスイッチの数が異なる人だと思ふ　光森裕樹

あ／フリーズ／逢いた／フリーズ／いくらでも強制終了できる恋かも　柳澤美晴

飛び込み台番号（7）のうえに立ち塩素の玉のきらめき見てる　山崎聡子

靴紐を結ぶべく身を屈めれば全ての場所がスタートライン　山田航

masa：児童書と Cafe がお好きで感性が鋭い人
写真と詩のコラボが素晴らしい

嵐の前の静けさ

恐さと期待と入り混じる

この厄介な感情が僕を悩ませる

いつもとは違う景色が見たい

いつもと同じ景色がいい

そんな相反する感情に挟まれながら

今宵も眠りにつく

楽しい時間は

あっという間に過ぎて

気がついたら

もうどこかに消えている

でも、そういう泡沫のような

記憶の積み重ねが

生きていることの

証になるのかもしれない

ハミング：スイーツとポルノグラフィティとチェコ好きでプチオフ会を主催されています。
今回は文・写真による極上の CAFÉ 空間を堪能してください

ハミング・スイーツセレクション in 神戸

「大好きだからこそ、自分だけの秘密にしておきたい」。そんなカフェを今回は特別に紹介しよう！JR 三ノ宮駅から北野方面に徒歩 7 分の所にある、隠れ家的な佇まいの『cafe shuu』。扉を開けると、そこにはおとぎ話に出てくるようなオシャレで可愛らしい、非常に落ち着く空間が広がっている。木の温もり、控えめな灯り、ソファの心地良さ、センス良くディスプレイされた雑貨や本たち、凝ったインテリア、ときめきとアットホームが混在した雰囲気・・・☆
そんなオアシスで出されるこだわりのスイーツと種類豊富なドリンクも絶品！

①初めて訪れた際に注文した「ベリーアイスグラタン」は、熱いトーストの上に、冷たいバニラアイスと凍ったベリーが乗っかっており、バラの香りが上品に鼻から抜けていく一品！
一緒にいただいた「抹茶ミルク」もおいしかった☆

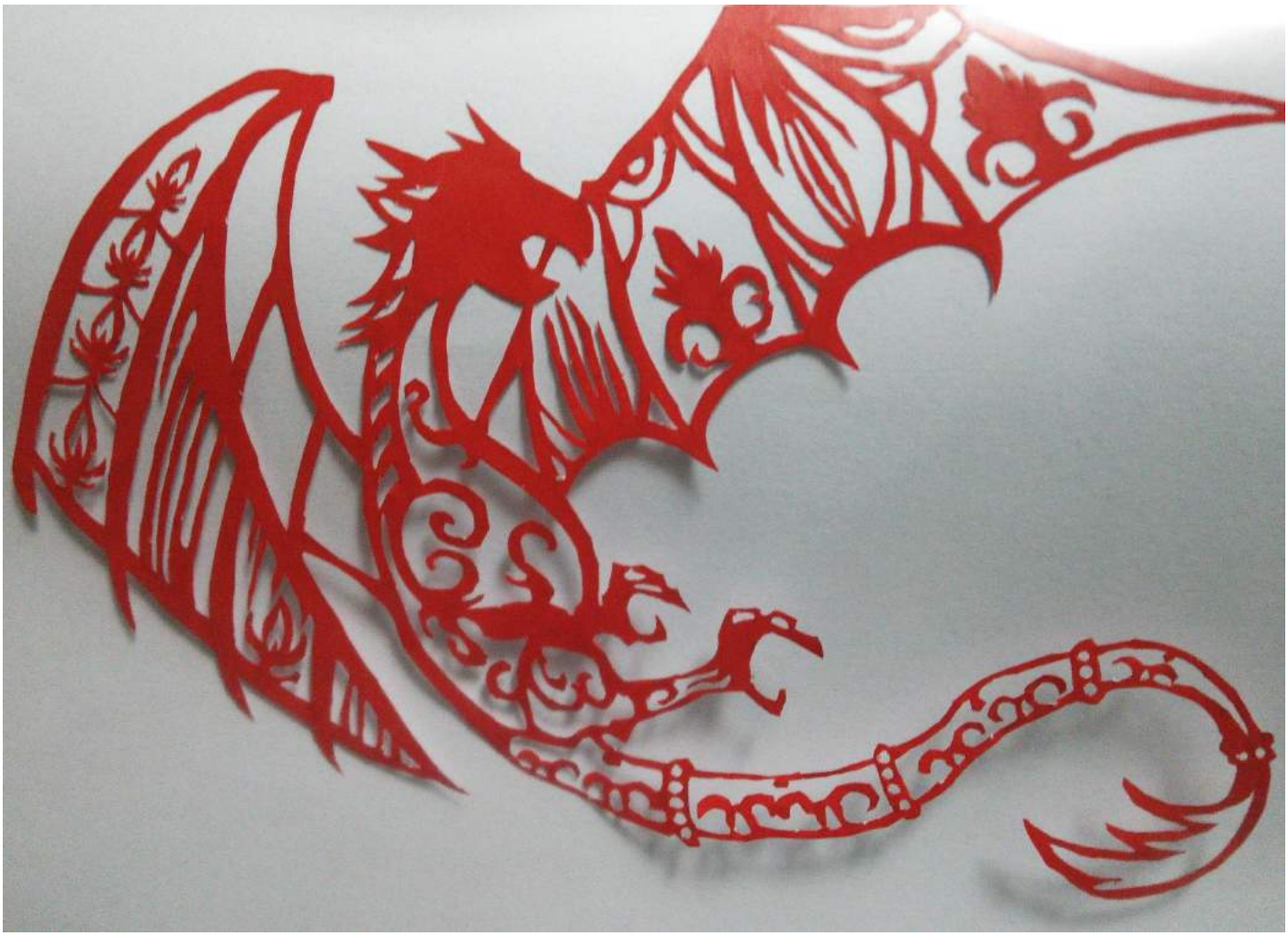
②「マロンティラミス」のお供には「jipang 桜」というお茶をチョイス♪
日本人の和の心を感じさせる味わいで、昔の思い出が蘇ってきた…！

③「もものレアチーズケーキ」の優しい色合い、見事な層、桃のほのかな香りとレアチーズケーキのしっかりした味わい、添えられたフルーツは、見てときめき、食べてときめく☆

④濃厚なチョコレートアイスがとてもおいしい「チョコフルーツパフェ」は、底の方にイチゴ・バナナ・グレープフルーツなどがたっぷり入っており、意外と食べ応えあり！
お供は、香りの良い「薔薇の紅茶」♪甘い薔薇のジャムと一緒にいただくと、更に香り高くて、最高！非常に私好み☆

こんな素敵なお店で、誰かとじっくりお話しながらお茶やスイーツを楽しむのも良し、一人ゆっくり読書でもしながらまったりくつろぐのも良し。
きっと、「またぜひ行きたい♪」と訪れる度に思わせれてくれることだろう。

直島：日本最大の図書館検索サイト『カーリル』を教えて頂いた人。
芸術的切り絵ワールド満開です。



Nikko： 読メ登録で『読書の幅が広がりました』と…
芸術的なお菓子の数々を紹介して頂きました♪

めぐり会えた和菓子たち♡2013

2013年にめぐり会えた和菓子たちを、実に簡単に並べてみました。(お恥ずかしいかぎりですが（＾＾；))
京都が多くなってしまうのは必然なのでしょうか？2014年は少しでも多くの県で食してみたいです（＾＾）♪

2013.2.10　俵屋吉富(京都)

2013.2.11@菊屋（奈良）

2013.2.11@遊形ｻﾛﾝ・ﾄﾞ・ﾃ(京都)

2013.2.12@京都茶寮(京都)

2013.3.24@都内某所にて購入

2013.03.31@都内某所にて購入

2013.4.27@走井餅老舗(京都)

2013.4.27@城南宮

2013.4.27@永楽屋(京都)

2013.4.29@銀閣寺

2013.4.29@無鄰庵

2013.5.8@頂きものを自宅にて

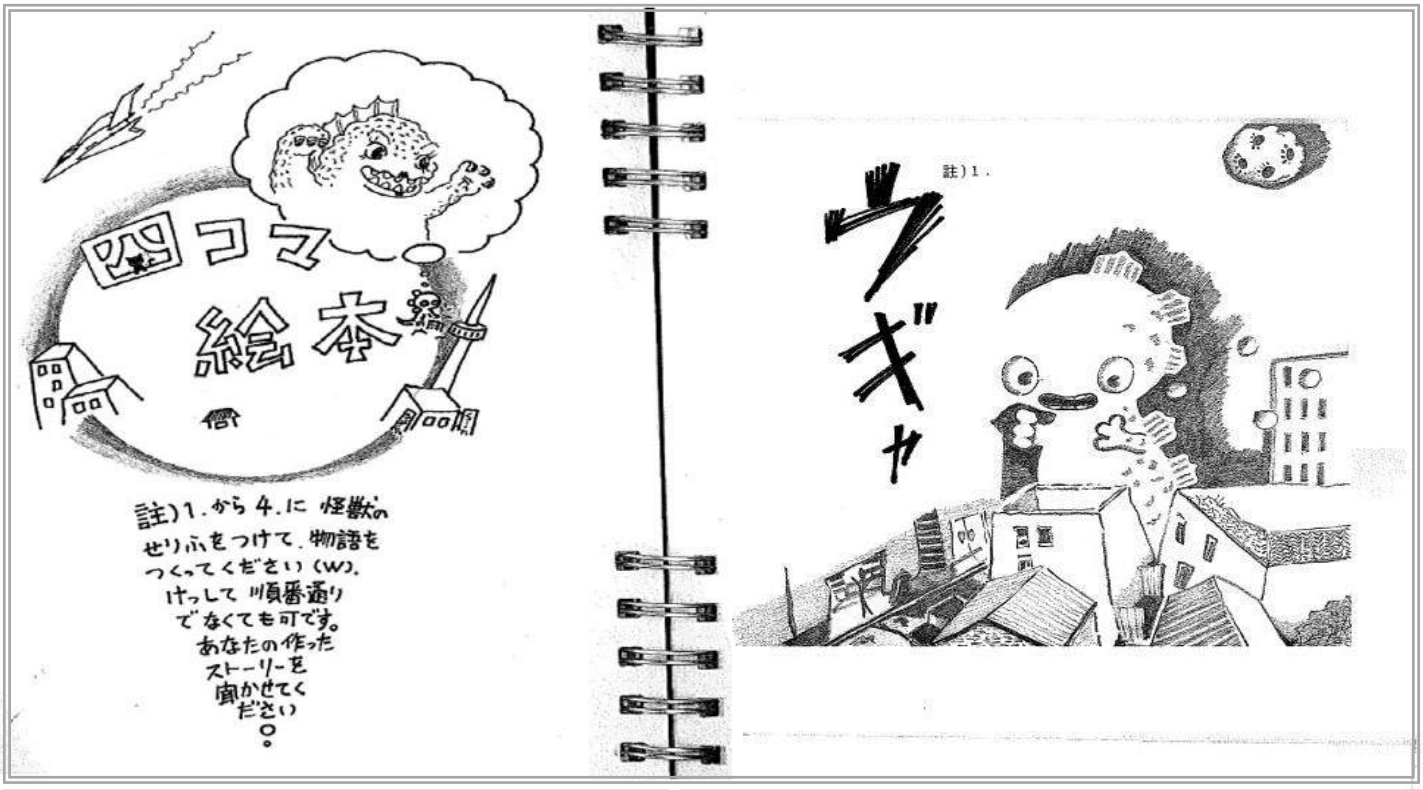
2013.5.31@瑠璃光院

2013.6.2@甘春堂(京都)

2013.11.2@宇治・上林春松

2013.11.4@五健外郎屋(京都)

2013.12.23@都内某所にて購入



Sin：昔、漫画の同人誌を作っておられた。
人柄が絵に投影されています。
読者参加型ストーリー漫画という発想が面白い！

たいこ：『ずっと本ばかり読んでいる人』だそうです。小説とミステリーがお好きらしい。
今回、スプラスティックな作品で面白い。

私は夢の話を書いてみようと思う

これは私が麻生総理の就任期間中に実際に見た夢の話であるが、今もはっきりと記憶に残っている。

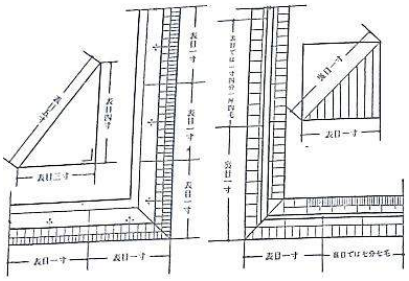
麻生総理が家に来た。秘書を１人連れて。理由は政策の失敗を詫びるため。一軒一訪ねているとのこと。総理なので断るわけにもいかず家に上がってもらったが、母は興味がなかったらしい。
私にこっそり聞いてきた。「お茶出さなあかんやろか」と。
総理やし、ということでお茶を出すが、何と、総理がお茶を一口飲んだ途端、胸を押さえ、倒れたのである。
お茶に毒物が？とにかくえらいこっちゃと救急車を呼ぶのだが、救急隊員も意味不明。少し離れた所に救急車を停め、担架を持って歩いて来たらしい。
そして騒ぎを聞いて出てきた近所の人達に「私たちも忙しいんで、あなた達で担架担いでもらえます？」ととんでもないことを。当然「働け税金ドロボー」となるわけだが、そこは夢。
私達が担架を担ぐことになった。私と近所の人４人で担いだのだが、何せずぶの素人。
お神輿のように肩に担いでしまった。当然担架は傾き、いくらも進まぬ内に総理は地面に落ちた。しかも坂道だったため、ころころと転がり止まらない。私達は思わず笑ってしまった。
「えへへ」すると先程の救急隊員が鬼の形相で怒鳴った。
「人の命が懸かってるんやぞ！歯を見せるな！」私はそこではっ！と目が覚めたのである。夢というのは全くもってはちゃめちゃだ。

ｺﾗﾑ『トライアングル・チャチャチャ♪』

コットン：きままにミニオフ会を主催する人。

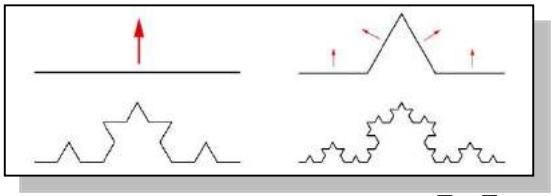
年と共に思慮深さが無くなってきたぞ！

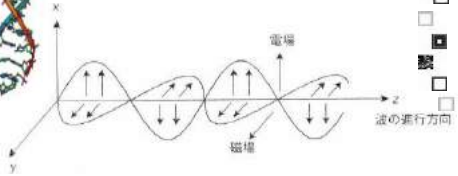
① 先ず３についてのイメージは⇒安定なのかな
- 言葉－晴れがましい、決意…三々九度、三々七拍子
  －宗教…三種の神器、キリスト教の三位一体
  - 強度アップ…三人寄れば文殊の知恵、三本の矢、三点確保
- 色 - 色の三原色：（マゼンタ・シアン・イエロー）、光の三原色：（赤・青・緑）
- 空間と形－３次元（３D）、三角形、三角錐、三角柱



② 三角形関連
- 右図のように下の列になるごとに１つ増える二重丸の四列の合計は安定な
  １+２+３+４＝１０となる
- 正方形を１とする対角線は無理数（ルート２）なのにその三角形の面積は整数。この比は白銀比１：ルート２
  さしがねの表に対し裏の長尺はルート２になっている。
- ピタゴラスの定理　$a^2 + b^2 = c^2$
- 三角関数（サイン、コサイン、タンジェント）
- コッホ曲線というのもある。：線分を３等分し、分割した２点を頂点とする正三角形の作図を無限に繰り返すことによって得られる図形

◎
◎ ◎
◎ ◎ ◎
◎ ◎ ◎ ◎





Hasemi：本は基本「手元に置きたい！」症候群だそうで。里親本もあるようです。
本棚にはお菓子・パン、料理の本が多数登録されています。

「哀しみの果て」

哀しみの果てには

どんな言葉もなく

君の声が

静かに存在していました

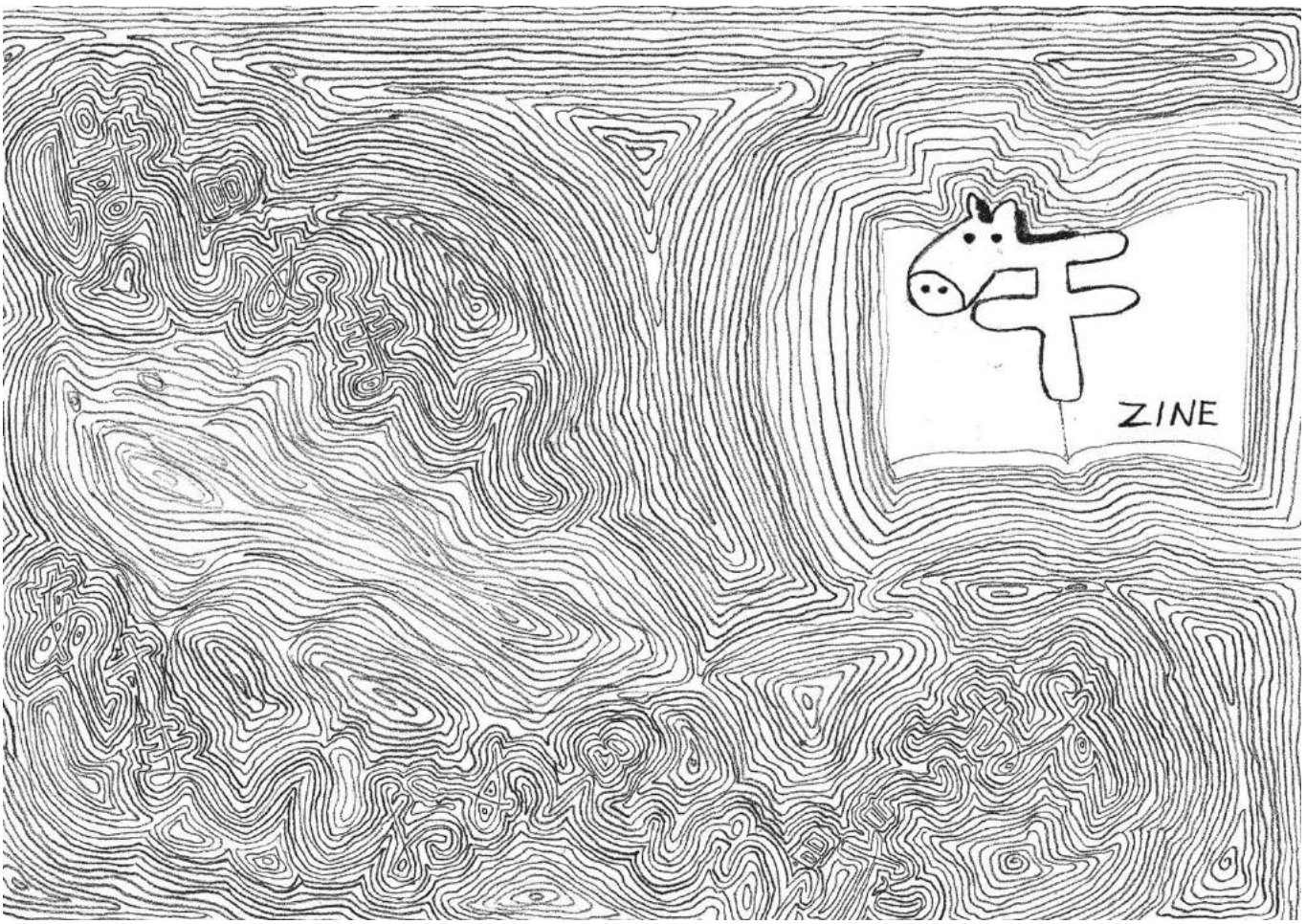
哀しみの果てには

どんな幻想もなく

君のまなざしが

穏やかに存在していました

うめぼし：最近は自己啓発本や小説を読み始められています。
今回は腱鞘炎と戦いながら（笑）隠れ文字によるアート作品すごいです。

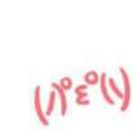


『おっさんはモテ期』　著：瀬理秀明

瀬理：ミステリー系及び人気作家さんが好物。文才もある人。

「君、モテ期になる薬欲しくない？」
「はい？」
「いや、だからさ。モテ気になる薬だよ」
「言葉の意味はわかります。ですが、それって怪しげな媚薬とかじゃないんですか？」
「僕もはじめはそう思ったよ。でも、物は試しだと思って使ってみたらさ、本当にモテ期が来たんだよ！」
「本当ですか？」
「本当だって！　そうじゃなきゃ、君にこんな話しないよ」
「ちなみに、具体的にはどんな効果があったんですか？」
「街で急にかわいい女の子から話しかけられるようになったんだ！　いきなりだったから走って逃げちゃったけど、こんなこと人生初だよ！　でも、少し効き目が強すぎるせいか、男も寄って来ちゃうのが玉に瑕なんだけどね。あくまで僕はノンケだからさ」
「……突然ですけど、課長って田舎のご出身ですか？」
「え、そうだけど、よくわかったね。青森の支社から来たとしか言ってなかったよね？」
「はい。でも、今の話で大体わかりました」
「何が？」
「課長が田舎出身であることと、モテ期の正体です」
「本当！　教えて！」
「彼女たちはキャッチセールスという一種の客引きで、飲食店が雇ったアルバイトです。先日、都会に出てきたばかりの課長は知らなかったようですが、謂わばティッシュ配りをしていたようなもので、別に課長に好意があって近づいてきたわけではないんですよ」

――つまり、残念ながら、課長はモテ期ではありません



ぽにょりん：『人間そんなに簡単に気は狂えねぇよと思いつつ、そのダークサイドに惹かれます。』と言われながらも愛嬌のあるイラストが素敵です。